





○花園胡蝶
はなぞのこてい



○塵塚蜻蛉
ちりづかのあまが

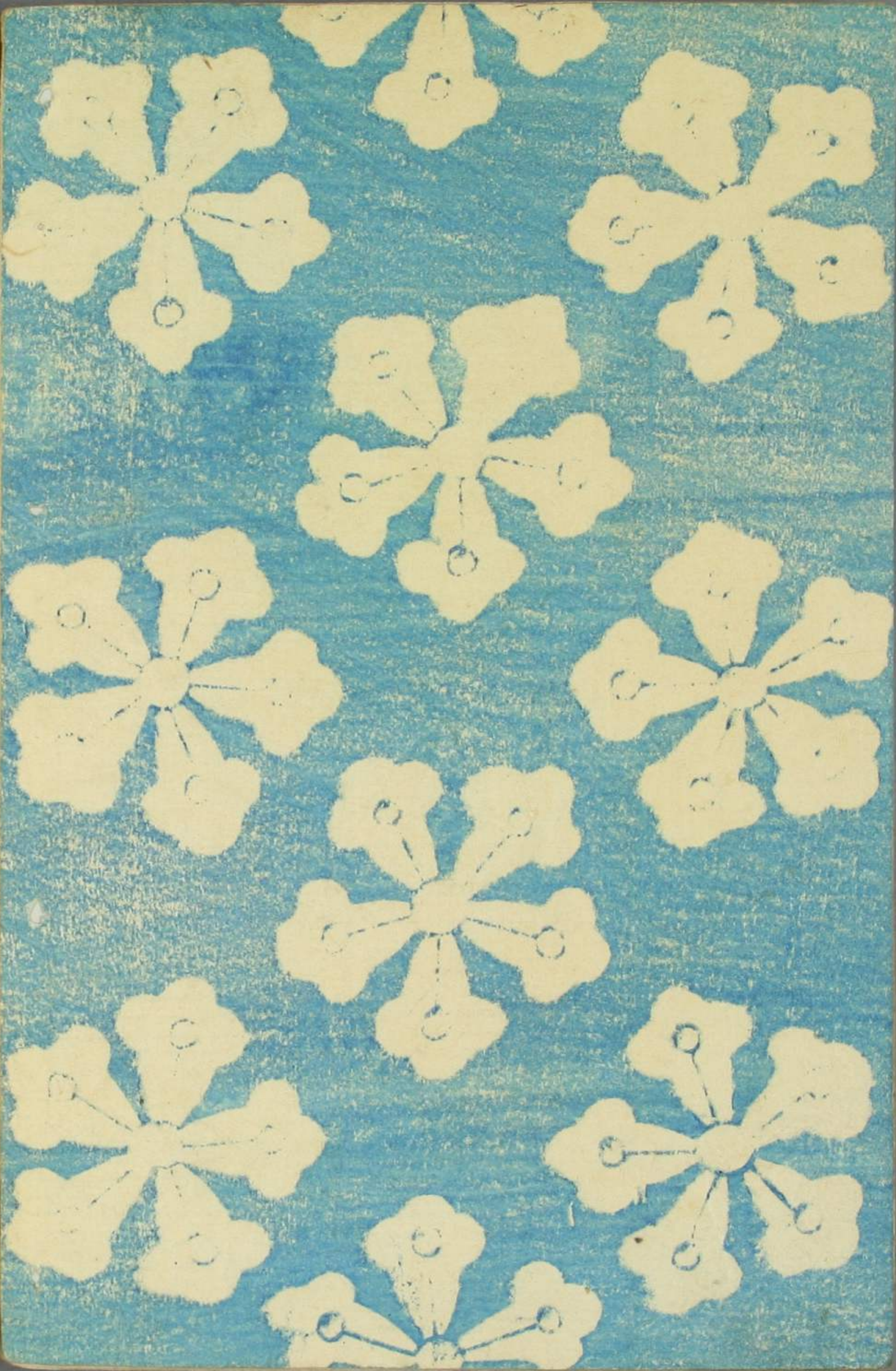




八景
下
卷七

種芳氏
國貞画

十三卷下





Vertical text on the left side of the illustration, likely a title or introductory text.

Vertical text on the right side of the illustration, likely a poem or commentary.

Two columns of vertical Japanese calligraphy within a rectangular frame.

Two columns of vertical Japanese calligraphy within a rectangular frame, positioned below the first frame.









つれづれ
日ねのあつた
うんたんとてあ
ちいさなま
ちのんかた
つのも
まは

これら
あまの

あまの
あまの

あまの
あまの



あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの

あまの
あまの

あまの
あまの

あまの
あまの



111

おののあつちの
けちちち
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね



112

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

ちねちね
ちねちね
ちねちね
ちねちね

古き物語の巻物多し。あるは源氏の最初より綴本まで幾
 巻とい稱せ五十四帖と云則の巻物多し。其支明の若菜の巻物の
 ありね何の巻と云の上下有てり。れも紙員百枚をかり然りと思へ
 篇火関屋の僅小四片五片之長短比一々差ぬ。目先を異る才女が
 新案巻物とて積と見え見苦。なほ六帖とせらるる東海道の宿次
 小宮根八里の長丁場あれ。五井赤坂の半里あり。ぬも源氏の御世の
 ありての制とともかくも長譚の其一段の長き小過て飽りのあるを
 廣沼信濃が父の話四五丁胡蝶秋津が久く出ねとて人あらるる
 のあべ十五編より後々の短き丁場も形容かへ。在篇火の一焚
 爪も二人の話を校とるべし。

柳多の種と云

室所十四



むねまゝの原氏
 小ぶるはふた

十四帖と



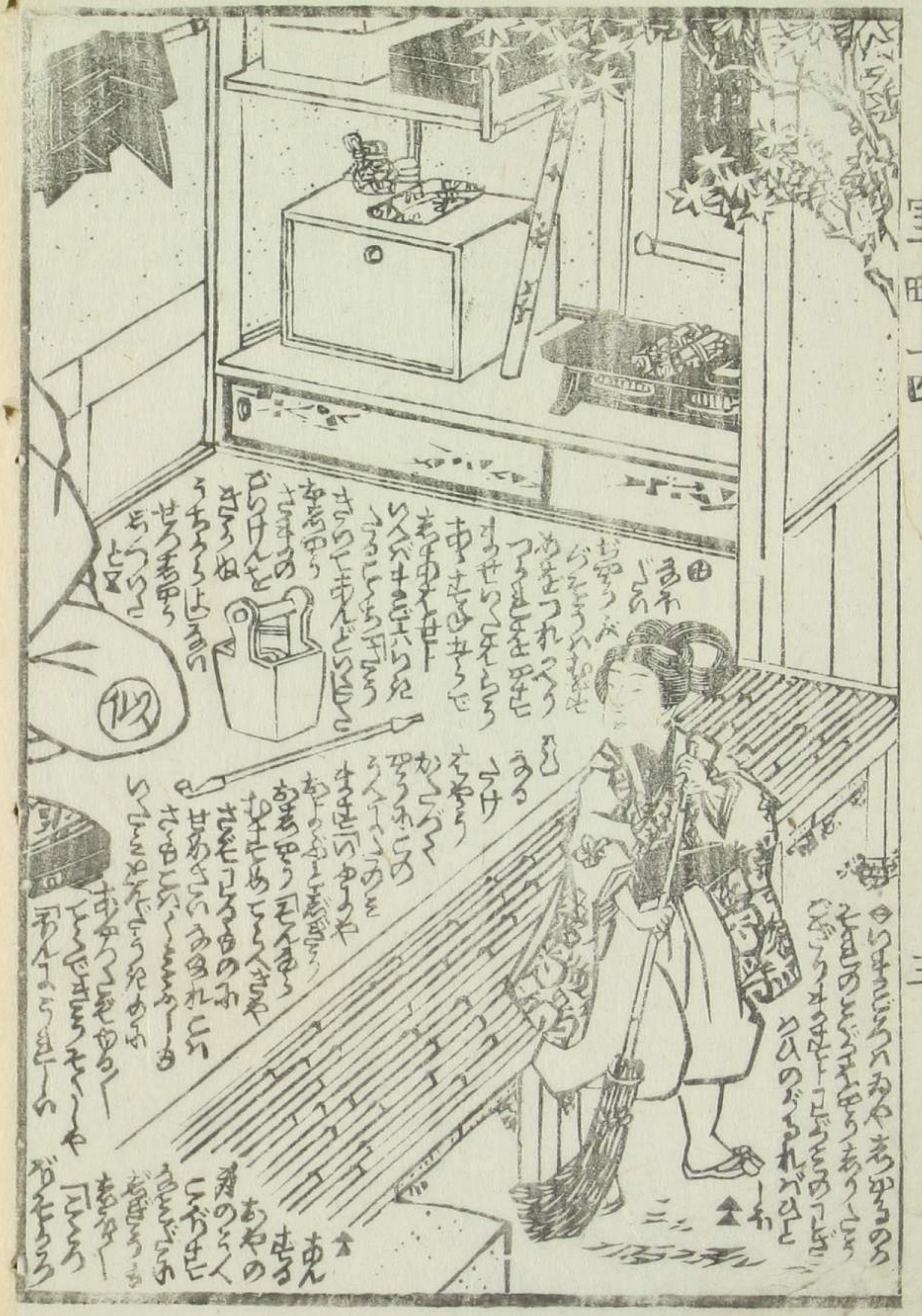
莫^{まさ}の花^{はな}園^{のゐ}姫^{ひめ}漸^{おと}々^と
 猛^まく^まお^おろ^ろ子^こ細^こハ
 十^じ八^は編^あみ^み到^{いた}り^り分^わ明^か







Page 110



Page 111





種彦著
國貞画

丹波

本家
實母散

私方室田入の翁中を...
千葉堂考輔製

鼠洞通夜譚

四編
八編

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇
辰春

為永春水作
梅蝶樓國貞画

這ハ世ハ普ク沙汰せらる。姐已阿百傳ゆ。是ハ和尚奥の惡靈
賣練芦田の家ハ仇做人とて爰ハ忠臣孝女ゆりて涙を垂る手ハ其
ふはよりの表もあて花やう咲く月く理のほろ。草及紙もろん





Vertical columns of handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a story or dialogue. The text is arranged in columns on both sides of the central illustration.



種方作
同貞書

小傑卷
十四下





三日月

十一



三日月

十二

つらみみなるこ
こらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ



つらみみなるこ
こらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ

つらみみなるこ
こらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ



つらみみなるこ
こらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ
つらみみなるこ







あつちのうらやまの

あつちのうらやまの

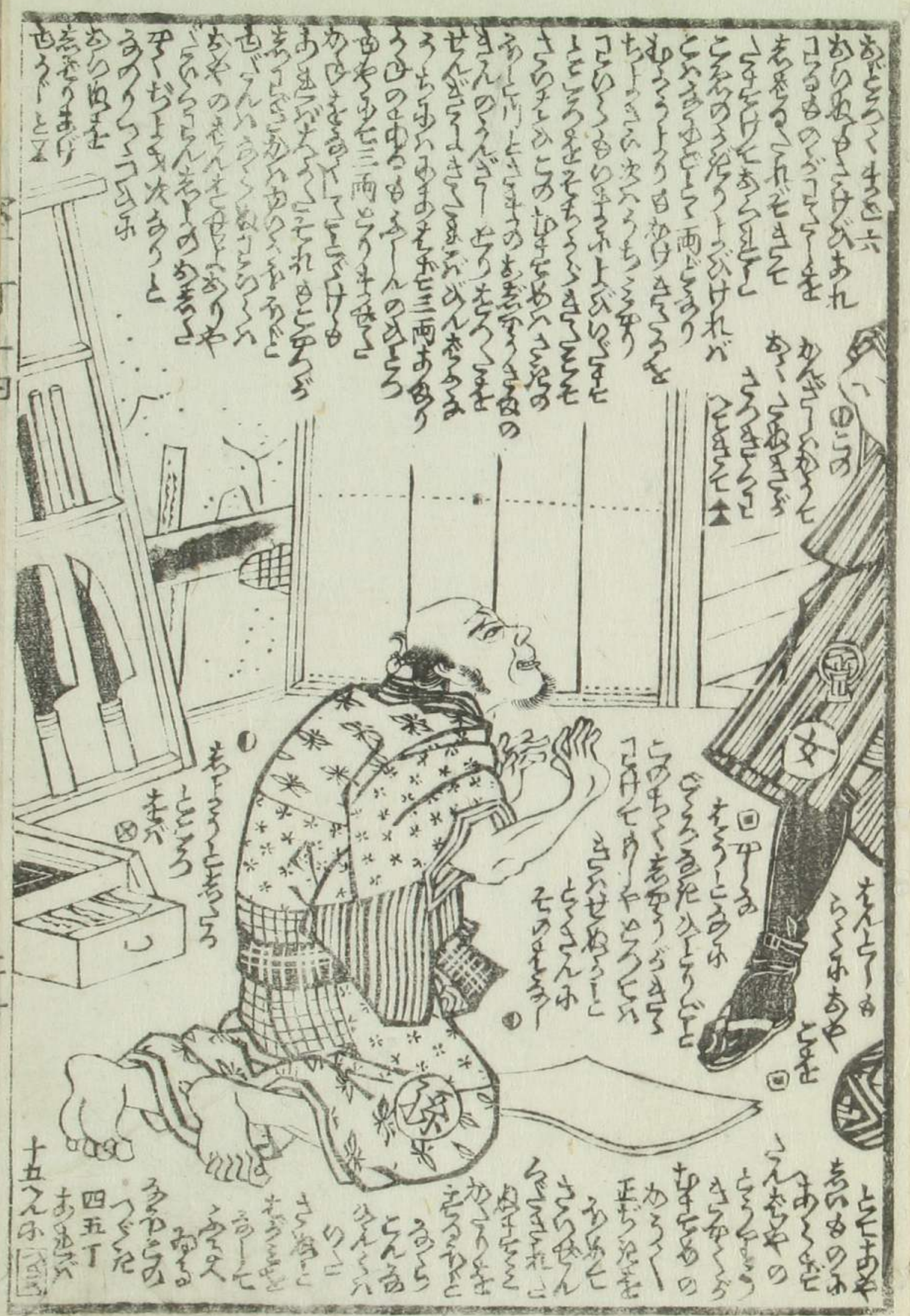
あつちのうらやまの

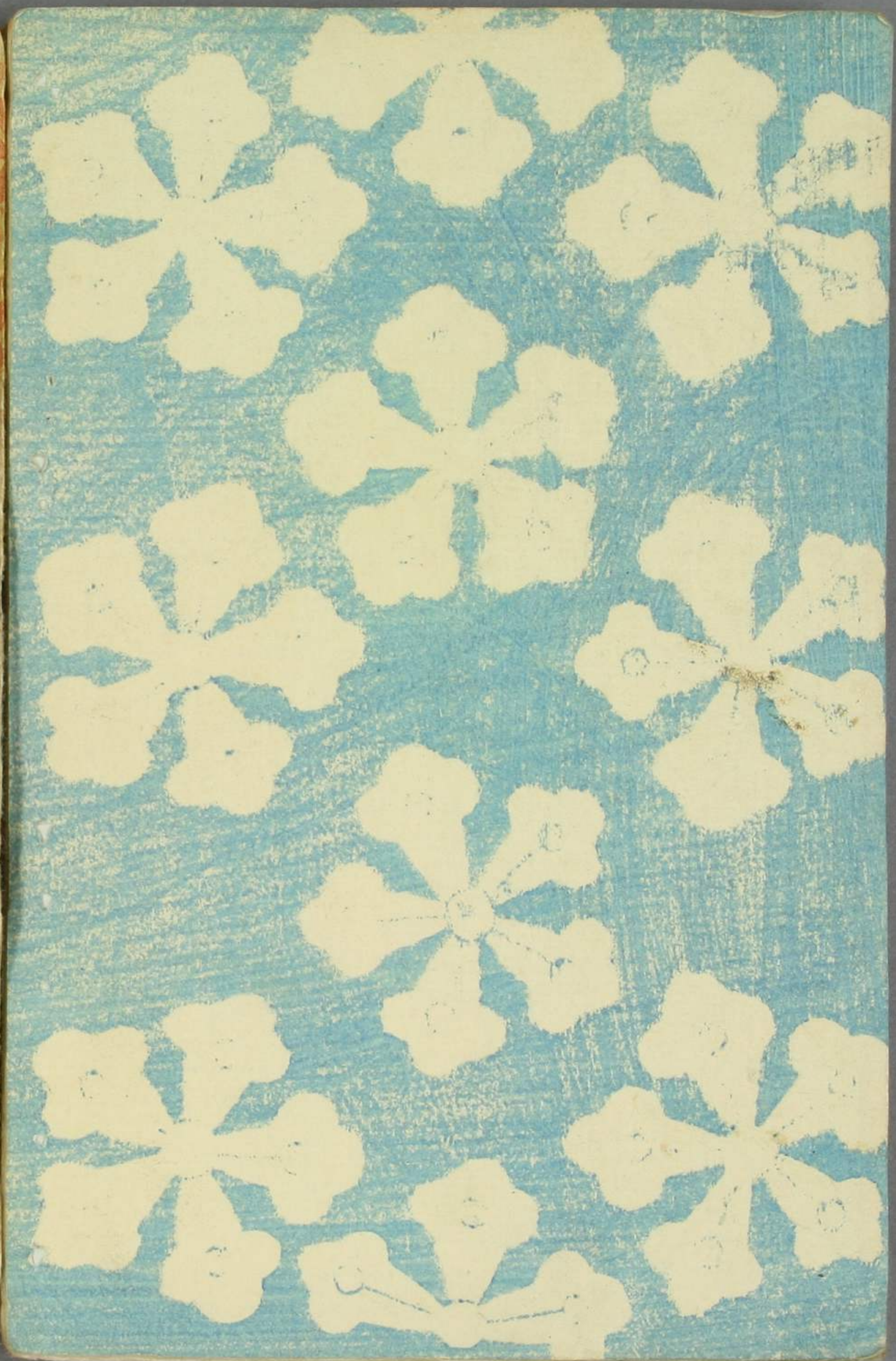
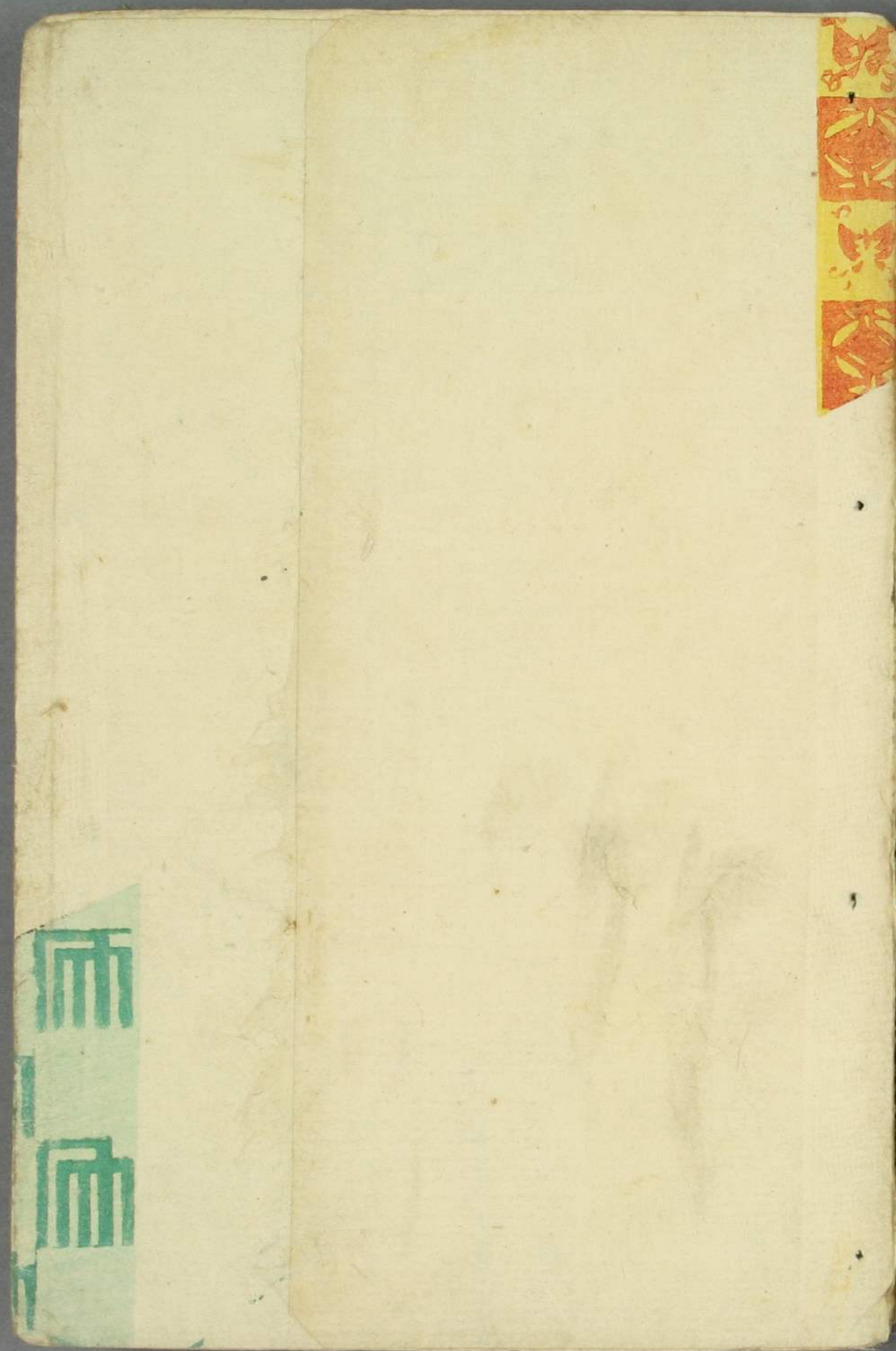


あつちのうらやまの

あつちのうらやまの

あつちのうらやまの





室所源氏小蝶入卷

種秀花國貞畫

十四編

